

「過越の食事(3)」

マコ14:18~21、ルカ22:19

1. はじめに

(1) 文脈の確認

- ①木曜日に、ペテロとヨハネは過越の食事の準備をした。
- ②日没後(金曜日)、過越の食事が始まった。

(2) 過越の食事の手順(ロバートソンの順番とは異なる)

- ①食前のことば
- ②第一の杯
- ③洗足とユダの裏切りの予告(1)
- ④カルパス(野菜)とユダの裏切りの予告(2)
- ⑤2枚目の種なしパン(マツツァ)
- ⑥ハロセットとユダの裏切りの予告(3)
- ⑦第三の杯
- ⑧偉大さに関する教え
- ⑨ペテロの拒否の予告
- ⑩ハレル(賛美)

(3) A. T. ロバートソンの調和表

§146aと148b

2. アウトライン

- (1) カルパス(野菜)とユダの裏切りの予告(2)
- (2) 2枚目の種なしパン(マツツァ)

3. 結論:

- (1) アフィコーメンの儀式の神学的意味
- (2) 過越の食事と最後の晩餐

過越の食事の中に隠されたキリストを発見する。

IV. カルパス(野菜)とユダの裏切りの予告(2)

1. 18節

**Mar 14:18** そして、みなが席に着いて、食事をしているとき、イエスは言われた。「まことに、あなたがたに告げます。あなたがたのうちのひとりで、わたしといっしょに食事をしている者が、わたしを裏切ります。」

(1) 「わたしといっしょに食事をしている者が、わたしを裏切ります」

- ①詩41:9への言及
- ②ダビデはアヒトフェルの裏切りに会った。
- ③食卓を共にした者が裏切りを働くのは、最悪の罪である。

(2) 食事の順番

20節の訳文の比較

- ①「わたしといっしょに鉢に浸している者」(新改訳)
- ②「わたしと一緒に鉢に食べ物を浸している者」(新共同訳)
- ③「わたしと一緒に同じ鉢にパンをひたしている者」(口語訳)
- ④「我と共にパンを鉢に浸す者」(文語訳)

(3) この段階で行うのがカルパス(野菜)の儀式である。

- ①使用されるのは、緑色野菜(パセリかレタス)である。
- ②これを塩水の中に浸して食べる。
- ③この儀式は、紅海を渡ってエジプトから解放されたことを記念するものである。

(4) 複数の塩水の鉢が分散して食卓の上に置かれている。

- ①横になって過越の食事を食するのが紀元1世紀のユダヤ教の律法である。  
\* どんなに貧しくてもこれを実行した。
- ②2~3人でひとつの鉢を使用した。
- ③イエスとユダは、同じ鉢を使う位置関係にあった。

(5) ここでイエスは、ユダの裏切りの予告をする。

- ①これは2度目の予告である。
- ②12弟子の中でこの言葉の意味を理解したのは、ユダだけである。

## 2. 19節

**Mar 14:19** 弟子たちは悲しくなって、「まさか私ではないでしょう」とかわるがわるイエスに言いだした。

(1) イエスの言葉は弟子たちに衝撃を与えた。

- ①ひとりひとり、自分の嫌疑を晴らして行った。

(2) ユダも同じことをした。マタ 26:25 参照。

Mat 26:25 **すると、イエスを裏切ろうとしていたユダが答えて言った。「先生。まさか私のことではないでしょう。」イエスは彼に、「いや、そうだ」と言われた。**

- ①ユダはイエスを「主」ではなく、「先生(ラビ)」と呼んでいる。
- ②質問の形式は、「ノー」という答えを期待するものである。
- ③「いや、そうだ」とは、「あなたが言った通りだ」ということ。
- ④ここでの会話は私的なもので、他の弟子たちは気付いていない。

### 3. 20 節

Mar 14:20 **イエスは言われた。「この十二人の中のひとりで、わたしといっしょに鉢に浸している者です。」**

- (1) イエスは依然として裏切り者の名を明かさない。
  - ①カルパスをとともに食している者が裏切り行為を働くのは、重大な罪である。
  - ②イエスは、ユダに悔い改めの機会を提供された。

### 4. 21 節

Mar 14:21 **確かに、人の子は、自分について書いてあるとおりに、去って行きます。しかし、人の子を裏切るような人間はわざわいです。そういう人は生まれなかったほうがよかったです。」**

- (1) ユダヤ教は、神の主権と人間の責務の両方を認める。
  - ①聖書信仰に立つ者もまた、神の主権と人間の責務の両方を受け入れる。
- (2) 神の主権に基づけば、キリストは預言通りに十字架の死を遂げる。
  - ①ユダの裏切りがなくても、キリストの死は成就した。
- (3) 人間の責務に基づけば、ユダには責任がある。
  - ①彼はサタンの手先として動いている。
  - ②本来、存在することは祝福である。
  - ③しかし、ユダにとっては、存在することが呪いとなった。
  - ④彼は、存在目的に反することを意図的に行った。

## V. 2枚目の種なしパン(マツツァ)

### 1. アフィコーメンの儀式について

- (1) 3層に分かれたマツツァ用の布袋を用意する。
  - ①そこに3枚のマツツァを入れる。
  - ②三位一体の神を象徴している。
- (2) 使用するマツツァの3つの条件
  - ①種なしパンであること
  - ②焦げ目がついていること
  - ③小さな穴が開いていること
- (3) 食事の途中で真ん中のマツツァを半分に割り、片方を麻布にくるんで隠す。
  - ①真ん中のマツツァは、第二位格の神を象徴している。
- (4) 食事の最後にそれを見つけ出し、小片に割って全員がそれを食べる。
  - ①アフィコーメンとは、デザートという意味である。

## 2. 19節

**Luk 22:19 それから、パンを取り、感謝をささげてから、裂いて、弟子たちに与えて言われた。「これは、あなたがたのために与える、わたしのからだです。わたしを覚えてこれを行いなさい。」**

- (1) イエスが弟子たちに与えたパンは、アフィコーメンである。
  - ①ユダヤ教のラビたちは、アフィコーメンの儀式を神学的に説明できない。
  - ②メシアニックジャーたちは、その意味を深く理解している。
  - ③聖餐式の目的は、イエスの御業を記念することである。

## 3. 教理的誤り

- (1) 化体説 (Transubstantiation)
  - ①パンがキリストの体に変化する。
  - ②カトリック教会の立場である。
- (2) 実体共存説 (Consubstantiation)
  - ①カトリック教会の化体説を認めない立場である。
  - ②ルター派と聖公会がこの説に立つ。
- (3) 霊的存在説 (The Spiritual Presence)
  - ①キリストの体と血は、パンとぶどう酒の中に物理的にではなく、霊的に存在し

ている。

②ジョン・カルバンの立場である。

③従って、改革派の教会の立場となっている。

(4) 記念説 (A Memorial)

①聖餐式は、イエスを記念するために行うものである。

②宗教改革者の中では、ツウィングリ (スイスの宗教改革者) が提唱した。

③最も聖書的な説である。

結論：

1. アフィコーメンの儀式の神学的意味

(1) 種なしパンであること

①イエスは罪のないお方であることを象徴している。

(2) 焦げ目がついていること

①茶色の焦げ目は、イエスが受けた鞭の痕を象徴している。

Isa 53:5 しかし、彼は、／私たちのそむきの罪のために刺し通され、／私たちの咎のために砕かれた。／彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、／彼の打ち傷によって、私たちはいやされた。

②私たちの霊的な傷が癒されたということ。

(3) 小さな穴が無数に開いていること

①穴は、イエスが刺し通されたことを象徴している。

②茨の穴、釘の穴、槍の穴

③詩 22 : 16

Psa 22:16 犬どもが私を取り囲み、／悪者どもの群れが、私を取り巻き、／私の手足を引き裂きました。

④ゼカ 12 : 10

Zec 12:10 わたしは、ダビデの家とエルサレムの住民の上に、恵みと哀願の霊を注ぐ。彼らは、自分たちが突き刺した者、わたしを仰ぎ見、ひとり子を失って嘆くように、その者のために嘆き、初子を失って激しく泣くように、その者のために激しく泣く。

(4) イエスは砕かれ、亜麻布にくるまれ、墓の中に隠された。

①隠されたマツァを見つけ、それを割り、全員がその小片を食する。

②私たちは、イエスの贖いの死を受け入れ、それを体験する。

## 2. 過越の食事と最後の晩餐

(1) 過越の食事は、神がイスラエルの民をエジプトから解放されたことを記念する(思い出す)ためのものである。

(2) 最後の晩餐は、霊的解放を記念する(思い出す)ためのものである。

①イエスは、「わたしを覚えてこれを行いなさい」と言われた。

②聖餐式の目的は、イエスが十字架上で為してくださったことを記念する(思い出す)ことである。

(3) 1コリ 11:23~26

1Co 11:23 私は主から受けたことを、あなたがたに伝えたのです。すなわち、主イエスは、渡される夜、パンを取り、

1Co 11:24 感謝をささげて後、それを裂き、こう言われました。「これはあなたがたのための、わたしのからだです。わたしを覚えて、これを行いなさい。」

1Co 11:25 夕食の後、杯をも同じようにして言われました。「この杯は、わたしの血による新しい契約です。これを飲むたびに、わたしを覚えて、これを行いなさい。」

1Co 11:26 ですから、あなたがたは、このパンを食べ、この杯を飲むたびに、主が来られるまで、主の死を告げ知らせるのです。

①記念のため

②主の再臨を待ち望むため